令和 6 年度 宝木小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

心身ともに健康で、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的かつ柔軟に対応できる判断力、新しい時代を拓く開拓者精神に基づく実践力を持ち、夢に向かって心豊かに、たくましく生きようとする児童を育成する。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

～心身ともにしなやかな子の育成～

たくましい子（心身共に健康で、強い意志をもって粘り強く行動する）

よく学ぶ子（基礎学力を確実に身に付け、自ら考え主体的に学習する）

やさしい子（互いを尊重し、思いやる心を大切にしながら他とかわかり、ルールやマナーを守り、適切に判断・行動する）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

教育理念である「やさしさ 勇気 喜び そして 夢」及び具体目標である「心身ともにしなやかな子」を育てる教育の実現に向け、全職員が一丸となって、目指す学校像の実現に努力したい。

(1) 子どもにとって、わくわくする気持ちが湧き上がる、楽しい学校

・アプローチⅠ：授業で勝負！ 学力向上を目指した授業づくり

・アプローチⅡ：Ⅱ：認め励まし、教え導く！ 規律と活気、思いやりのある学級づくり

(2) 保護者にとって、安心して子供を通わせられる学校

・アプローチⅢ：保護者とスクラム！ 子供たちの健全な成長を目指す協働体制づくり

(3) 地域にとって、信頼できる開かれた学校

・アプローチⅣ：「地域の学校」として！ 地域の皆さんとの強いきずなづくり

(4) 教職員にとって、自らの力を発揮しかつ向上を目指せる、働きがいのある学校

・アプローチⅤ：先生もいきいきと！ 教職員一人一人が活躍する学校づくり

3 学校経営の方針（中期的視点）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 特色ある学校づくりの展開

・やさしさプロジェクト ・勇気、元気プロジェクト ・喜びプロジェクト ・夢プロジェクト

(2) 学力向上を目指した学習指導の充実

(3) 心を育む教育活動の推進

(4) 児童指導の充実

(5) 「地域の学校」づくりの推進

(6) 教職員の資質向上

(7) 地域学校園を生かした活動の充実

【陽西地域学校園教育ビジョン】

自己の「よさ」を生かすとともに他者を尊重し、粘り強く頑張る子供の育成

—協働的な学びを通して、自己肯定感をはぐくむ教育活動の推進—

4 教育課程編成の方針

(1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法及び同施行規則、小学校学習指導要領等の教育関係諸法令の示すところに従うとともに、栃木県教育委員会、宇都宮市教育委員会の方針等を踏まえて教育課程を編成する。また、宇都宮市の施策である小中一貫教育を、有効かつ持続可能な方法を探りながら確実に実施する。

(2) 地域や学校の実態及び児童の心身の発達段階や特性を考慮しつつ、児童の人間として調和のとれた育成を目指して、確かな学力、豊かな心、健やかな体のバランスを重視した教育課程を編成する。

(3) 本年度の本校の教育目標、学校経営の方針、指導の重点及び具体策、学校課題等の具現化を図るとともに、地域社会や保護者の実態を考慮して教育課程を編成する。

(4) 「これからの教育課程の理念」を踏まえ、「社会に開かれた教育課程」編成のため、カリキュラムマネジメントの視点から一貫性・相互関連性のある教育課程・各種年間指導計画を作成し教育活動を展開する。

①各教科の教育内容を相互の関係で捉え、教科横断的な視点で内容を組織的に配列する。

②子供たちの姿や地域の現状等に基づき、教育課程をR-PDCAサイクルで実施改善する。

③教育内容と、地域等の外部も含めた人的・物的な資源を効果的に組み合わせる。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
 ○学校理念「やさしさ 勇気 喜び 夢」、具体目標「しなやかな子の育成」を軸とした特色ある教育活動の推進
 ・心身ともに健康であると共に、機動性のある職員組織を構築し、やりがいのある職場環境を目指した働き方の推進
- (2) 学習指導…「ともに学びともに育つ」授業の質的改善を通じた基礎・基本の確実な習得、学びに向かう力の育成
 ○基礎的な学習態度・学習習慣の形成と基礎的基本的な学習内容の定着
 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた、絶え間ない授業改善と学級経営力の充実
 ・学力調査等を活用し、学習に係る課題と要因を把握した上での協働実践の工夫
 ・「通常の学級での特別支援教育」の視点に立った学習指導の工夫と、読書意欲の向上
- (3) 児童生徒指導…きまりを守り、正しい判断のもとに主体的に行動する児童の育成、及び、挨拶を中心とした基本的な生活習慣の育成
 ○基本的な生活習慣の形成（「児童のやくそく」「あたりまえチャンピオン」を学校組織として徹底）
 ・道徳科を核とする道徳教育の推進と、宇都宮学の学びを通じた郷土への愛情の育成
 ・いじめ等対策委員会、校内支援委員会、学年分掌児童指導部会での組織的、かつ迅速な対応の実施
- (4) 健康（保健安全・食育）・体力…心身の調和をとるための運動習慣や生活習慣に関心をもち健康管理に努める態度の育成
 及び健康・体力に関心をもち目標を決めて自ら健康・体力の向上に取り組む児童の育成
 ○児童が主体的に取り組む体力づくり（「チャレンジカード」の活用・サーキットトレーニングの実践）
 ・健康・安全につながる基本的な生活習慣の形成・定着と疾病治癒率の向上
 ・児童が主体的に取り組む食育の推進「マナーアップ、バランスアップで、元気アップ」

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通，地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価（ ）はR5の結果
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決のために、他者と協力したり、情報を集めたりする必要があるような課題を設定する。 本時のめあてを明確にすることで、児童が見通しをもって主体的に学習に取り組む態度を育成する。 	B	<p>【達成状況】 児童肯定的回答割合 88.8% (90.6%) 教職員肯定的回答割合 100% (97.1%) 保護者肯定的回答割合 88.3% (90.3%)</p> <p>【次年度の方針】 ・継続して、導入や発問を工夫したり学習課題を明確にしたりすることで、見通しをもって課題にじっくりと取り組めるようにし、主体的に学ぶ態度を育成する。また、授業の中に他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考える場面を意図的に設定していく。</p>
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A 2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 同学年の児童どうしが、互いに認め合え、相手を尊重できるような場や時間を設定したり、学年集会等を活用し、思いやりの大切さを指導したりすることで、児童の思いやりの心の育成を目指す。 縦割り班活動など様々な場面で異学年交流の機会を増やし、学年をまたいだ認め合いの場を設定できるようにする。 	B	<p>【達成状況】 児童肯定的回答割合 88.5% (89.6%) 教職員肯定的回答割合 100% (91.4%) 保護者肯定的回答割合 92.9% (94.7%) 地域住民肯定的回答割合 100% (100%)</p> <p>【次年度の方針】 ・同学年の児童どうしが、互いに認め合え、相手を尊重できるような場や時間を設定したり、学年集会等を活用し、思いやりの大切さを指導したりすることで、児童の思いやりの心の育成を目指す。 ・縦割り班活動など様々な場面で異学年交流の機会を利用し、学年をまたいだ認め合いの場を設定できるようにする。 ・率先垂範で、教師が手本となるような言動をする。</p>

	<p>A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の目標を明確にし、個に応じてスモールステップで示し支援することで、あきらめずに学習に取り組む態度を育成する。また、一人一人の学びを見とり、個に応じた目標を意識させ、適切に支援することで、学力の個人差が大きくなるようにする。算数の習熟度別学習も効果的に取り入れるようにする。 ・児童が成果を感じ取ることができるような取組の実施や他者から認められる機会を設定する。 	<p>【達成状況】 児童肯定的回答割合 87.0% (85.3%) 教職員肯定的回答割合 94.3%(91.4%) 保護者肯定的回答割合 80.0%(80.6%)</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題に応じて目標を定め、その達成に向けて取り組むことができるようにする。また、算数の習熟度別学習も効果的に取り入れ、適切に支援することで、学力の個人差が大きくなるようにする。 ・児童が成果を感じ取ることができるの実施や他者から認められる機会を設定する。
<p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康生活の振り返りを2回実施する。また、遊び方の提示や場の設定をすることで、安全に気を付けながら遊ぶことができるようにするとともに、運動時間の確保をする。体育行事については、実施方法を見直すことで児童の関心を高めていくようにする。 ・給食委員会によるお昼の放送や、毎月発行する食育だよりの配布等によって、児童の食への意識の向上を図る。 	<p>【達成状況】 児童肯定的回答割合 90.3% (91.5%) 教職員肯定的回答割合 94.3%(91.4%) 保護者肯定的回答割合 90.8%(88.6%) 地域住民肯定的回答割合 100% (100%)</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康生活の振り返りを2回実施する。また、遊び方の提示や場の設定をすることで、きまりを守って、安全に遊ぶことができるようにする。 ・体育行事については、実施方法を見直すことで児童の関心を高めていくようにする。 ・給食委員会によるお昼の放送や、毎月発行する食育だよりの配布等によって、児童の食への意識の向上を図る。
<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 教職員肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリアパスポート」を適切に活用し、自分のよさや成長の記録を残すようにすることで、<u>児童が夢や目標をもち努力しようとする意欲を育てる。</u> ・「人権週間カード」に児童間での認め合いを促す枠を作り、児童が自分のよさをさらに実感できる機会を作る。 	<p>【達成状況】 児童肯定的回答割合 86.4% (89.6%) 教職員肯定的回答割合 100% (88.6%)</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キャリアパスポート」を適切に活用し、自分のよさや成長の記録を残すようにすることで、児童が夢や目標をもち努力しようとする意欲を育てる。 ・「人権週間カード」に児童間での認め合いを促す枠を作り、児童が自分のよさをさらに実感できる機会を作る。
<p>2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 教職員肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用することで、児童の発表方法や活動内容を工夫し、英語でのやりとりの機会を増やしていく。また授業以外でALTと関わる場面を充実させたり、朝の活動等で英語を使った活動を取り入れたりする。 	<p>【達成状況】 児童肯定的回答割合 74.4% (76.8%) 教職員肯定的回答割合 91.4%(88.6%)</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続して、ICT機器を活用することで、児童の発表方法や活動内容を工夫し、英語でのやりとりの機会を増やしていく。また授業以外でALTと関わる場面を充実させる。

	<p>A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各学年で宇都宮市や地域のよさを実感できる教材開発を進めるとともに、全学年を通じた学習を系統的に実施することで、児童が宇都宮や地域のよさを実感できるように配慮していく。 校外学習などで、宇都宮の内容を取り扱ったり、給食の放送などで、農産物の紹介などをしたりしていく。 	<p>【達成状況】 児童肯定的回答割合 81.9% (86.2%) 教職員肯定的回答割合 77.1% (82.9%) 保護者肯定的回答割合 71.0% (72.1%)</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 次年度も引き続き、各学年で宇都宮市や地域のよさを実感できる教材開発を進める。 生活科や総合的な学習の時間を軸として系統的に学習することで、児童が宇都宮や地域のよさを実感できるように配慮していく。 校外学習などで、宇都宮の内容を取り扱ったり、給食の放送などで、宇都宮の農産物の紹介をしたりしていく。
<p>2-(2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p>	<p>A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業はもちろん家庭学習でも ICT 機器や図書等を積極的に使用するなど、様々な場面での活用を進めるとともに、系統的な情報モラル教育の充実を図るようにする。 児童の実態に即した育てたい資質・能力を整理し、活用力を高める。また、情報モラル教育のさらなる充実を図り、適切に活用できる態度を育てていく。 	<p>【達成状況】 児童肯定的回答割合 88.3% (89.6%) 教職員肯定的回答割合 100% (97.1%) 保護者肯定的回答割合 81.9% (87.2%)</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に即した育てたい資質・能力を整理し、活用力を高める。また、情報モラル教育のさらなる充実を図り、適切に活用できる態度を育てていく。 情報機器の使用法内容の吟味。
<p>2-(3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進</p>	<p>A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 児童肯定的回答 80%以上 教職員肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「持続可能な社会」について、教科の内容と関連させながら指導をしたり、児童に働きかけを行ったりすることで、関心をもたせるようにする。また、児童の身近な問題に着目させたり、対応を考えさせたりすることで実践力を高められるようにする。 	<p>【達成状況】 児童肯定的回答割合 86.4% (87.5%) 教職員肯定的回答割合 74.3% (65.7%)</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き「持続可能な社会」について、教科の内容と関連させながら指導をしたり、児童に働きかけを行ったりすることで、関心をもたせるようにする。 児童の身近な問題に着目させたり、対応を考えさせたりすることで実践力を高められるようにする。 宝木小の強みである、生活科や総合的な学習の時間などでも環境や持続可能な社会の学びについてを意識しながら指導に当たるようにする。
<p>3-(1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 交流及び共同学習を充実させることを通して、どのような視点から特別支援教育を進めていくことが効果的か明らかにするとともに、「通常学級での特別支援教育」への対応を図れるようにする。また、児童の実態を引き継いでいけるようにしていく。 	<p>【達成状況】 教職員肯定的回答割合 100% (100%)</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「通常学級での特別支援教育」への対応を図れるようにする。また、個別支援計画や個人の記録等を作成し児童の実態を引き継いでいく。 別室での指導も効果的に活用し、今後もチームで指導に当たるようにしていく。 meet を使ったオンライン授業を積極的に進めていく。

<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止の基本理念に基づき、教育活動全体を通して思いやりや助け合いの心を育てていく。 ・いじめアンケートや教育相談を活用し、いじめの早期発見、早期対応に努めるとともに、学年をはじめ学校全体で情報共有を密にして、被害児童や保護者に寄り添った対応できるようにする。 	<p>【達成状況】 児童肯定的回答割合 94.8% (97.4%) 教職員肯定的回答割合 100% (100%) 保護者肯定的回答割合 77.9% (79.7%) 地域住民肯定的回答割合 93.8% (100%)</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートや教育相談を活用し、いじめの早期発見、早期対応に努めるとともに、学年をはじめ学校全体で情報共有を密にして、児童保護者に寄り添った対応をする。 ・学年だより等を利用して、保護者に学校の取り組みを知ってもらえるようにする。
<p>3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p>	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の個性が認められ、安心して生活できる居がいのある学級づくりに努める。また、行き渋りや不登校傾向のある児童への対応は、学年やチーム、児童指導部会等で全職員が情報を共有できるようにし、課題の早期発見・早期対応に努めるとともに、必要に応じて外部機関との連携を図るなど、適切な支援ができるようにする。 	<p>【達成状況】 児童肯定的回答割合 94.1% (96.6%) 教職員肯定的回答割合 100% (100%) 保護者肯定的回答割合 90.5% (90.5%)</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の個性が認められ、安心して生活できる居がいのある学級づくりに努める。 ・行き渋りや不登校傾向のある児童への対応は、学年や児童指導部会等で全職員が情報を共有できるようにし、課題の早期発見・早期対応に努める。 ・必要に応じて外部機関と連携し、支援に繋げる。
<p>3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「宝木の子しなやかプロジェクト」活動や学習、行事について目的、実施方法を見直し、児童一人一人が自分の学び、成長を実感できる活動を行うことで活気ある学校づくりを推進できるようにする。さらに、教職員も協働し、一人一人が活躍できる教育活動を推進する。 ・あいさつ以外の項目に関しても称賛できるような取り組みを工夫していく。 	<p>【達成状況】 児童肯定的回答割合 95.0% (95.9%) 教職員肯定的回答割合 100% (100%) 保護者肯定的回答割合 89.6% (86.6%) 地域住民肯定的回答割合 100% (100%)</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も引き続き「すくすく宝木の子しなやかプロジェクト」をもとにした、宝木っ子プロジェクトを実施し、あいさつ以外の項目に関しても称賛できるような取り組みを工夫していく。 ・ホームページや各種便りで積極的に保護者や地域に取組についての情報発信をしていく。

<p>4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定的回答 85%以上</p>	<p>・学習活動を充実させることで、活動を通して達成感や成就感が味わえるようにする。また、本時のねらいの確認、振り返りを通して、自己の成長が感じ取れるようにする。そのためにも、ICTの効果的な活用、評価の共有化、教材開発等を行い、授業改善を図る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童肯定的回答割合 96.1% (96.9%) 教職員肯定的回答割合 100% (100%) 保護者肯定的回答割合 87.0% (89.3%)</p> <p>【次年度の方針】 ・学習活動を充実させることで、活動を通して達成感や成就感が味わえるようにする。 ・本時のねらいの確認、振り返りを通して、自己の成長が感じ取れるようにする。 ・ICTの効果的な活用、評価の共有化、教材開発等を行い、授業改善を図る。</p>
<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員肯定的回答 85%以上</p>	<p>・教職員の協働性を高め、それぞれの専門性を生かして、学習活動や児童指導、学校行事における支援、環境整備等に取り組む中で、チームワークよく教育活動を推進し学校力を向上させていく。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 教職員肯定的回答割合 97.1% (100%)</p> <p>【次年度の方針】 ・次年度も引き続き、教職員の協働性を高め、それぞれの専門性を生かして、学習活動や児童指導、学校行事における支援、環境整備等に取り組む中で、チームワークよく教育活動を推進し学校力を向上させていく。</p>
<p>4- (3) 学校におけ る働き方改 革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員肯定的回答 85%以上</p>	<p>・引き続き、教職員一人一人が勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努めるとともに、ICTなどを活用し効率化を図っていく。さらに、各学年の仕事や学年会の内容を一覧にして残し、引き継いでいくことで、誰が担当しても、見通しを持って業務を進めていけるようにする。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】 教職員肯定的回答割合 88.6% (88.6%)</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、教職員一人一人が勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努めるとともに、ICTなどを活用し効率化を図っていく。 ・教科担任や交換授業等、担当する授業を工夫し、各学年学級の仕事を進める時間や学年会の時間を確保できるようにする。 ・業務改善部会を必要に応じて開催し、改善できる業務を洗い出していく。</p>
<p>5- (1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定的回答 85%以上</p>	<p>・小中合同で見直したテーマや組織を継続し、さらに改善を図る。また、乗り入れ授業や生徒指導連絡会等の成果のある活動は継続し、小中職員間の相互理解を深めるように努める。あいさつ運動では、委員会の児童だけでなく、多くの児童が参加できるような方法を考えていく。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】 児童肯定的回答割合 86.4% (89.6%) 教職員肯定的回答割合 97.1% (97.1%) 保護者肯定的回答割合 80.9% (84.5%) 地域住民肯定的回答割合 100% (100%)</p> <p>【次年度の方針】 ・乗り入れ授業や生徒指導連絡会等の成果のある活動は継続し、小中職員間の相互理解を深めるように努める。 ・小中合同あいさつ運動、小6中学校訪問、お弁当の日等、小中で取り組んだことは各種便り、保護者会、個人懇談などで情報発信する。その際は、地域学校園の取り組みであると明記するようにする。</p>

<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進</p> <p>5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。</p> <p>【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「外部との連携を図った教育活動計画一覧」および「地域連携授業計画一覧」を参考に活動を行いながら、内容の見直しや改善も進めていく（連絡先も記載する）。また、実施後の情報発信をさらに積極的に行うようにする。 	<p>【達成状況】 児童肯定的回答割合 88.3% (91.6%) 教職員肯定的回答割合 100% (100%) 保護者肯定的回答割合 88.6% (88.8%) 地域住民肯定的回答割合 100% (100%)</p> <p>B</p> <p>【次年度の方針】 ・「外部との連携を図った教育活動計画一覧」および「地域連携授業計画一覧」を参考に活動を行いながら、内容の見直しや改善も進めていく。また、実施後の情報発信をさらに積極的に行うようにする。</p>
<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 保護者肯定的回答 85%以上 地域住民肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な安全点検を実施し、迅速な修理・補修による安全で適切な環境作りに努める。また、危機管理マニュアルや避難者初期支援マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、感染症予防対応などの不測の事態への対応を万全にする。 	<p>【達成状況】 教職員肯定的回答割合 100% (100%) 保護者肯定的回答割合 88.1% (92.1%) 地域住民肯定的回答割合 93.8% (100%)</p> <p>B</p> <p>【次年度の方針】 ・定期的な安全点検を実施し、迅速な修理・補修による安全で適切な環境作りに努める。 ・危機管理マニュアルや避難者初期支援マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、感染症予防対応などの不測の事態への対応を万全にする。</p>
<p>6- (2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。</p> <p>【数値指標】 教職員肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童用タブレットの有用性に触れながら効果的に活用できるように、活用場面や活用方法を工夫する。また、ICT支援員の授業参加を進め、さらなる効果的な活用を図る。 	<p>【達成状況】 教職員肯定的回答割合 97.1% (91.4%)</p> <p>B</p> <p>【次年度の方針】 ・児童用タブレットの有用性に触れながら効果的に活用できるように、活用場面や活用方法を工夫する。また、ICT支援員の授業参加を進め、さらなる効果的な活用を図る。</p>
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の生活の中であいさつが活性化するように、宝木小のきまりとして明記し児童に定着させるようにする。 ・児童会を中心に「宝木っ子プロジェクト」等の取組を実施することで、あいさつへの意欲を高め<u>児童の自発的なあいさつ</u>を促すようにする。 ・保護者への啓発のために、学級懇談等保護者と直接かかわる際に、学校共通の説明事項として、「宝木っ子プロジェクト」について説明する。 	<p>【達成状況】 児童肯定的回答割合 87.8% (91.1%) 教職員肯定的回答割合 100% (91.4%) 保護者肯定的回答割合 81.1% (78.8%) 地域住民肯定的回答割合 93.8% (100%)</p> <p>A</p> <p>【次年度の方針】 ・児童会を中心に「宝木っ子プロジェクト」等の取組を実施することで、あいさつへの意欲を高め<u>児童の自発的なあいさつ</u>を促すようにする。 ・教職員以外にも来賓の方など来校した人にも挨拶するように指導をする。</p>

<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「宝木っ子プロジェクト」を軸として、全職員共通理解のもと、学校全体で取り組んでいく。生活目標においても「宝木っ子プロジェクト」をもとに、児童の育てたい重点事項として設定する。 ・全校集会や学年集会等でもその都度、生活についての声掛け、指導を行うことで、児童に意識付けできるようにする。 	<p>【達成状況】 児童肯定的回答割合 90.2% (92.3%) 教職員肯定的回答割合 97.1% (88.6%) 保護者肯定的回答割合 88.5% (88.1%) 地域住民肯定的回答割合 93.8% (100%)</p> <p>【次年度の方針】 ・「宝木っ子プロジェクト」を軸として、全職員共通理解のもと、学校全体で取り組んでいく。生活目標においても「宝木っ子プロジェクト」をもとに、児童の育てたい重点事項として設定する。 ・全校集会や学年集会等でもその都度、生活についての声掛け、指導を行うことで、児童に意識付けできるようにする。</p>
<p>B3 学校は、児童の表現力を延ばすため、「話す」「聞く」「書く」等の言語活動に積極的に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 児童肯定的回答 80%以上 保護者肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいを明確にし、児童が課題意識をもって授業に臨めるようにする。さらに、一人一人の意見を大切に合える授業実践に努める。そのために、自分の考えをもてない児童に対する支援を行い、自信をもって考えを伝えられるように授業をコーディネートする。 	<p>【達成状況】 児童肯定的回答割合 81.7% (85.7%) 教職員肯定的回答割合 100% (100%) 保護者肯定的回答割合 84.0% (87.3%)</p> <p>【次年度の方針】 ・授業の中で、児童の本当の思いや気持ちを言葉で伝え合う、聞き合う場面設定をする。また、授業の終末に振り返りを書かせることも継続して実践していく。</p>
<p>B4 学校は、適切な宿題の内容や量、自主学習の奨励等を通して家庭学習の習慣化を図り、学力向上に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 児童肯定的回答 80%以上 保護者肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の啓発のため継続して家庭学習がんばり週間を設定する。また、1年間を通して、家庭学習の取組が定着できるような取り組みを工夫していく。 ・家庭と連携して取り組めるよう家庭への啓発を行う。 	<p>【達成状況】 児童肯定的回答割合 71.7% (72%) 教職員肯定的回答割合 100% (94.3%) 保護者肯定的回答割合 86.9% (86.5%)</p> <p>【次年度の方針】 ・家庭学習の啓発のため継続して家庭学習がんばり週間を設定する。また、1年間を通して、家庭学習の取組が定着できるような取り組みを工夫していく。さらに、家庭と連携して取り組めるよう家庭への啓発を行う。 ・宝木小学校としての家庭学習＝(宿題＋自主学習)を、児童や保護者に共有する。 ・良い学び方をしているノートなどをHP や便りを利用して学校全体に共有する。 ・校内自主学コンテストを開催する。</p>
<p>B5 児童は、自他の物や公共物を大切にし、正しく使っている。</p> <p>【数値指標】 児童肯定的回答 80%以上 保護者肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・整理整頓の仕方、心掛を指導し、持ち物の大切さを意識させる。 ・道徳の授業等を通して、公共物を大切にしようとする気持ちの育成を図る。 ・「宝木っ子プロジェクト」の項目にすることで、児童一人一人の物を大切にすることを高める。 	<p>【達成状況】 児童肯定的回答割合 95.3% (95.2%) 教職員肯定的回答割合 91.4% (82.9%) 保護者肯定的回答割合 89.7% (91.4%)</p> <p>【次年度の方針】 ・道徳の授業等を通して、公共物を大切にしようとする気持ちの育成を図る。 ・「宝木っ子プロジェクト」の項目にすることで、児童一人一人の物を大切にすることを高める。</p>

	<p>B 6 児童は、働くことや人のために役立つことを進んでしている。</p> <p>【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 教職員肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年交流の機会を設定することで、人のために役立つことの喜びを感じられるようにする。 ・係活動などを工夫し、進んで働くとする態度を育てる。 ・長期休業の際にお手伝いカードに取り組むことで、保護者に認めてもらえる場を設けていく。 	<p>【達成状況】 児童肯定的回答割合 86.6% (87.7%) 教職員肯定的回答割合 100% (100%) 保護者肯定的回答割合 79.3% (78.7%)</p> <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異学年交流の機会を設定することで、人のために役立つことの喜びを感じられるようにする。 ・係活動や委員会などを通して、進んで働くとする態度を育てる。 ・長期休業の際にお手伝いカードに取り組むことで、保護者に認めてもらえる場を設けていく。
	<p>B 7 学校は、外遊びの奨励や体育の授業、行事等を通して、児童の体力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 児童肯定的回答 80%以上 教職員肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サーキットや外遊びを奨励することで、児童の体力向上を図る。 ・様々な検定表を活用することで、進んで運動に取り組もうとする児童の育成を図る。 ・日課表の調整により休み時間を増やすことで、運動時間を確保する。 	<p>【達成状況】 児童肯定的回答割合 77.2% (83.4%) 教職員肯定的回答割合 97.1% (94.3%) 保護者肯定的回答割合 91.9% (89.1%)</p> <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サーキットや外遊びを奨励することで、児童の体力向上を図る。 ・様々な検定表や宇都宮ミニマムを活用することで、進んで運動に取り組もうとする児童の育成を図る。 ・週に2回のロング昼休みを活用して運動時間を確保する。
	<p>B 8 児童は、自分のよさを自覚し、前向きに学校生活を送っている。</p> <p>【数値指標】 児童肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保健指導の「ありがとうの木」や人権週間での自分の良いところを見つける機会などを通して児童一人一人が自分の良さに気づけるようにする。 ・教師が積極的に称賛するなどの声掛けをする。 ・宝木っ子プロジェクトを活用し、担任以外の多くの教職員から称賛される機会を設ける。 	<p>【達成状況】※教職員、保護者への質問内容を確認。 児童肯定的回答割合 84.7% () 教職員肯定的回答割合 97.1% () 保護者肯定的回答割合 92.3% ()</p> <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健指導の「ありがとうの木」や人権週間での自分の良いところを見つける機会などを通して児童一人一人が自分の良さに気づけるようにする。 ・教師が積極的に称賛するなどの声掛けをする。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

全般的に肯定的回答の割合が前年度より低くなっているが、多くの項目で本校の設定した目標数値を達成することができた。ただ、児童、保護者の肯定的回答の割合が下がっているものの、教職員の評価が上がっている項目があり、教職員と児童、保護者の認識のずれがあることが判明した。特に、A1「児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」、A5「児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。」、A8「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」の項目については、顕著に表れている。児童が主体的に学習できる授業内容の工夫や自己肯定感を高められる活動を取り入れていきたい。また、授業はもちろん家庭学習でも ICT 機器や図書等を積極的に使用するなど、様々な場面での活用を進めてきているので、肯定的回答の割合が下がった要因を考え、改善していきたい。地域学校園での 小中あいさつ運動と連携した児童会によるあいさつ運動を実施したり、さらに今年度は児童会以外の児童も参加するあいさつ運動として広げたり、乗り入れ授業を行ったりと、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行ってきたが、A17の児童と保護者の肯定的回答率が大きく下がっている。乗り入れ授業は6年生対象のため、他の学年の児童は分からなかったり、あいさつ運動の周知不足であったりと、原因を探りつつ、地域学校園の取り組みをもっと発信していく方法を考えていく必要がある。B1「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」に関しては、毎年、校内での挨拶はできるようになってきているが、校外での挨拶に課題が

残っていた。今回は、教職員と保護者の肯定的回答は上がっているが、児童と地域の肯定的回答が下がった結果となった。これは、課題がさらに浮き彫りになったことが表れている。旗当番をしている保護者からも、「ちらっとみて、目が合うとそらす。ほとんどの子が挨拶しません。」という記述があった。結果からは、挨拶できないことを自覚している児童が増えたということでもあるので、様々なアプローチを試みて、成果が分かるようにしていきたい。A18「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」については、教職員と地域の肯定的回答が100%であった。スクールガードなどの登下校の見守り、読み聞かせや書道、ミシンなどのボランティア等たくさんのご協力のお陰である。また、各学年の出前授業や親子の集いなど、家庭や企業・施設との連携も充実している。今後も、開かれた学校になるよう地域の教育力を大切に、学校教育目標の達成のために教育活動を進めていくと共に、多くの方々に支えられて、学校運営が成り立っていることを児童や保護者が理解できるよう周知していきたい。

7 学校関係者評価

【学習について】

- ・タブレットの持ち帰りの曜日を検討してほしい。(月曜日、金曜日は荷物が多いため)
- ・保護者の肯定的回答が低いのは、学校と児童の考えと、保護者の考えとのズレが大きいことが考えられる。
- ・授業の様子は、おとなしすぎる面もあるが、落ち着いている。
- ・5年生時に、SNSについての学習を必ずしているのはよい。ネットトラブルが今年度はなくなっている

【児童指導について】

- ・教室に入れない子のために別室を用意しているのがよい。
- ・下校時の挨拶はよくできるが、朝の挨拶ができない。
- ・登校時の歩行の仕方がバラバラになっていて危険。
- ・下校時、交通指導で立っていると、声をかけてくれる児童がいて、嬉しい。
- ・挨拶は学校で指導していると思うが、できない児童が多くなっている。今後は保護者の協力も必要。
- ・ロング昼休みを週に2日設定しているのは、子供たちにとってよい。
- ・宝木地区は、中学校区が入り組んでいて、難しい地区である。陽西中とは、あいさつ運動や乗り入れ授業などの交流があるが、宝木中とはない。そういったことが、肯定回答を下げているのではないか。

【その他】

- ・ボランティアについては、人数不足と高齢化が心配。なんとか人を増やす手立てを考えていきたい。
- ・幼稚園や保育園でも保護者のボランティアの協力は難しく、なかなか人が集まらない。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

全体として、数値目標は達成しているものの、昨年度より低い評価となっており、保護者、地域協議会委員の皆様からいただいたご意見を真摯に受け止め、次年度の方策について具体的に検討していきたい。

まず、来年度に向けて本校での課題を明確にした上で、新学習指導要領の趣旨を十分に踏まえ、「個に応じた指導」の充実を図るとともに、GIGAスクール構想を推進し、タブレットの授業での効果的な活用、及び、家庭での有効的な活用の充実を図る。

授業では、学習の目標を意識し、目標到達までの過程を個に応じてスモールステップで示し、支援することで、あきらめずに学習に取り組めるようにする。また、これまで以上に、授業の中で、児童の本当の思いや気持ちを言葉で伝え合う、聞き合う場面設定をする。授業の終末に振り返りを書かせることも継続して実践していく。体育では、様々な検定表や宇都宮ミニマムを活用することで、進んで運動に取り組もうとする児童の育成を図るとともに、週に2回のロング昼休みを活用して運動時間を確保する。さらに、学習時の規律規範を徹底し、学びに向かう力を高め、「協働的な学び」に生かせるよう学習形態等を工夫し、授業改善に努めていく。魅力ある学校づくり地域協議会と連携を図りながら、地域人材・施設を有効活用し、特色ある教育活動を推進する。

家庭学習においては、宝木小学校としての家庭学習（＝宿題＋自主学習）を、児童や保護者に共有するとともに、良い学び方をしているノートなどをHPや便りを利用して学校全体に共有したり、校内自主学コンテストを開催したりと、児童が意欲的に学習できるよう支援し、習慣化を図っていく。

挨拶や交通ルールの順守などの、生活の基盤づくりとなる課題については、家庭や地域の協力を得ながら、引き続き指導を行い、児童が進んで実践できるようにする。特に挨拶については、学校内ではできるが、校外に出るとなかなかできない現状であることから、地域学校園の小中あいさつ運動に全校生が参加するなど実施方法を工夫し、地域でも挨拶ができる児童の育成を目指していきたい。また、児童会を中心に「宝木っ子プロジェク

ト」等の取組を実施することで、挨拶への意欲を高め児童の自発的な挨拶を促すようにする。

学習面においても生活面においても、宝木っ子プロジェクトをもとに、児童・教職員が協働しながら取り組み、児童が明るくいきいきと充実した学校生活を送れるよう努めていくとともに、ホームページや各種たより、個人懇談等を通して、本校の児童の様子や家庭地域と連携した取組等に関する情報を積極的に発信し、全職員が一丸となって、教育理念である「やさしさ 勇気 喜び そして 夢」のもと、目指す学校像の実現に努力し、信頼できる学校づくりを行っていく。